

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年1月30日現在

今月の重点活動

■普及活動 **平成26年度岐阜地域普及成果検討会を開催**

1月29日、岐阜県水産会館において、普及活動成果検討会を開催し、農業者及び関係者が約70名参加した。

農業普及課からは、水田を守るための営農、いちご産地復活の方策、柿の担い手育成の3課題について事例報告した。

講演会では、農業の6次産業化の動きを踏まえた「成功事例に学ぶ～魅力的な農産物づくりと販売方法～」について学び、農家には難しいと思われる6次産業もこれからの農業経営には必要な考え方であると、好評であった。



【6次産業化に関する講演】

売れる農畜産物づくり

■だいこん **祝だいこん過去最高の実績を達成**

1月19日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの反省会が開催された。今年の出荷量は24.6万束と目標の26万束には至らなかったが、出荷量、販売金額とも過去最高を達成できた。

農業普及課からは、今年 of 気象、生育経過、施肥・トンネル被覆・病虫害防除など栽培上の問題点を説明するとともに、農家所得向上のため、目標の明確化や計画的な作業実践など生産者の意識改革を促した。



【反省会での指導】

■いちご **県共進会地方審査を実施**

1月8～14日にかけて、部会代表者、農業普及課及びJA職員が中心になって、管内いちご生産者158戸を対象に県いちご共進会の地方審査を実施した。

いちごの草勢や着果（花）などの生育状況のほか、病虫害の発生やほ場管理の状況、経営規模、育苗様式や本ぼの栽培環境など経営面についても審査し、優良経営体47戸を県審査（2月3日及び13日）へ推薦した。



【ほ場審査の様子】

■栗 **整枝剪定技術現地研修会を開催**

1月30日、山県市大桑多目的センターにおいて、栗の整枝剪定現地研修会を開催した。（栗生産者約50人参加）

室内研修では、農業普及課から剪定、接ぎ木、施肥、害虫対策など来作に向けた管理について説明を行い、現地ほ場では、中山間農業研究所中津川支所主任専門研究員が剪定を指導した。あいにくの雨天であったが参加者は熱心に受講していた。



【剪定指導】

戦略的な流通・販売

■ えだまめ **産地振興プロジェクトを決定**

1月21日、岐阜農林事務所において、JAぎふ、岐阜市、JA全農岐阜及び農業普及課担当者による第6回えだまめ産地戦略会議を開催した。各関係機関が産地振興プロジェクト案で掲げた優先項目についての具体的な取り組みプランを説明し、項目ごとに役割分担と取組期間を協議するとともに、新たな項目の追加も行き、最終版を決定した。

今後は、各項目の主担当機関が中心となって、えだまめの産地振興プロジェクトの達成に向け、活動を開始していくこととしている。



【戦略会議】

多様な担い手の育成・確保

■ 中山間地農業 **農集落営農の組織化**

1月6日及び22日に、それぞれ山県市役所と富波公民館において、山県市青波地区で進めている集落営農システム確立検討委員会が開催され、今後のスケジュール等について打合せを行った。農業普及課は、集落営農組織の設立等について、検討会委員も兼ねた土地改良組合長が考えている通り、現役員の任期中に法人組織を設立することを念頭に、今後の行うべき事項の日程調整等を助言した。



【検討委員会】

■ 稲作農業の体質強化 **事業理解の周知**

1月20日の山県市を皮切りに、21日には北方町、22日に各務原市、本巣地域と岐阜市、28日に羽島市において、26年度補正予算事業の「稲作農業の体質強化緊急対策事業」に係る説明会が行われた。農政局や市町から事業内容や申請手続きが説明された後、農業普及課から取組内容の詳細や考え方等について補足説明した。



【事業説明会】

■ 岐阜地域青年農業士連絡協議会 **仲間づくり**

岐阜地域青年農業士連絡協議会では、1月15日と20日に役員が地域の若手農業者を訪問し、新規青年農業士の勧誘活動を行った。

会の活動内容については農業普及課が行ったが、役員からは会員同士助け合った事例等自らの体験を語ってもらうことができ、前向きに検討してもらえることとなった。



【勧誘活動】

■ 岐阜地域4Hクラブ **全国農業青年交換大会・交流会大盛況**

1月22日、全国農業青年交換大会（愛知県）の現地視察（岐阜県コース）と交流会が開催された。岐阜県コースには、全国から約50名が参加し、大いに盛り上がった。クラブ員が交流会のホストとなって運営することから、農業普及課は、交流会でのおもてなしのためのシナリオ準備や余興の検討など事前準備を支援した。



【岐阜地域会長のあいさつ】